

# 平成27年度 西宮市生活支援コーディネーター活動報告

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課



地域の「つどい場」づくりの推進



大型ごみ片づけ支援プロジェクト  
～「スーパーお片づけ隊」による支援の仕組みづくり～



介護保険モデル事業「ふくふくサロン」

I. 生活支援コーディネーターの配置経過等	2
II. 生活支援コーディネーターの業務内容と実績	2
1. 業務内容	2
2. 活動件数	2
3. 相談対応内容	3
III. 生活支援コーディネーターの具体的活動	4
1. 新たな支え合いづくり	4
2. 連携・協働に向けた取り組み	8
3. 共生のまちづくり実践	9
4. その他	9
IV. 一年間の活動の振り返りと課題について	10

## I. 生活支援コーディネーターの配置経過等

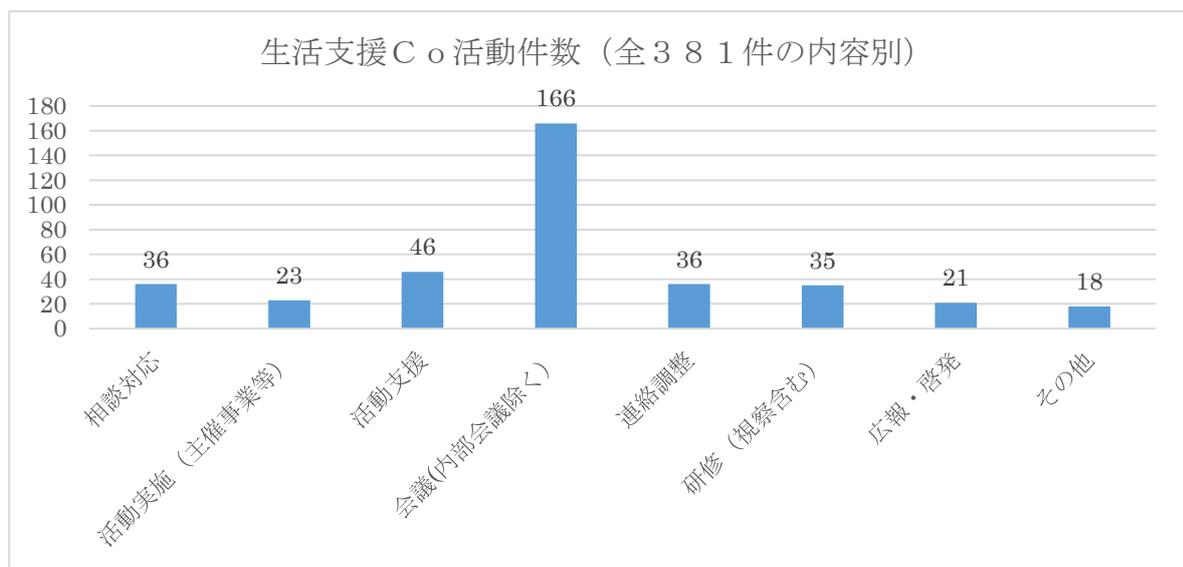
- ・国の介護保険改正（H27年4月）に伴い、地域における生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加を目指し、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や、地域の多様な主体のネットワークの構築に向けて配置された。
- ・西宮市においては生活支援コーディネーター設置事業が市から社会福祉協議会に委託。  
初年度であるH27年度は2名で全市域を担当（共生のまちづくり課 音川・今井）
- ・現在の社会状況や西宮市社協第8次地域福祉推進計画（共生のまちづくり）に関連して、高齢分野を中心にしながらも、障がいや生活困窮など地域で生きづらさを抱えている人や世帯等にも視野を広げて活動を行う。（≠個別支援）

## II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数

### 1. 業務内容

主な業務内容
1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

### 2. 活動件数

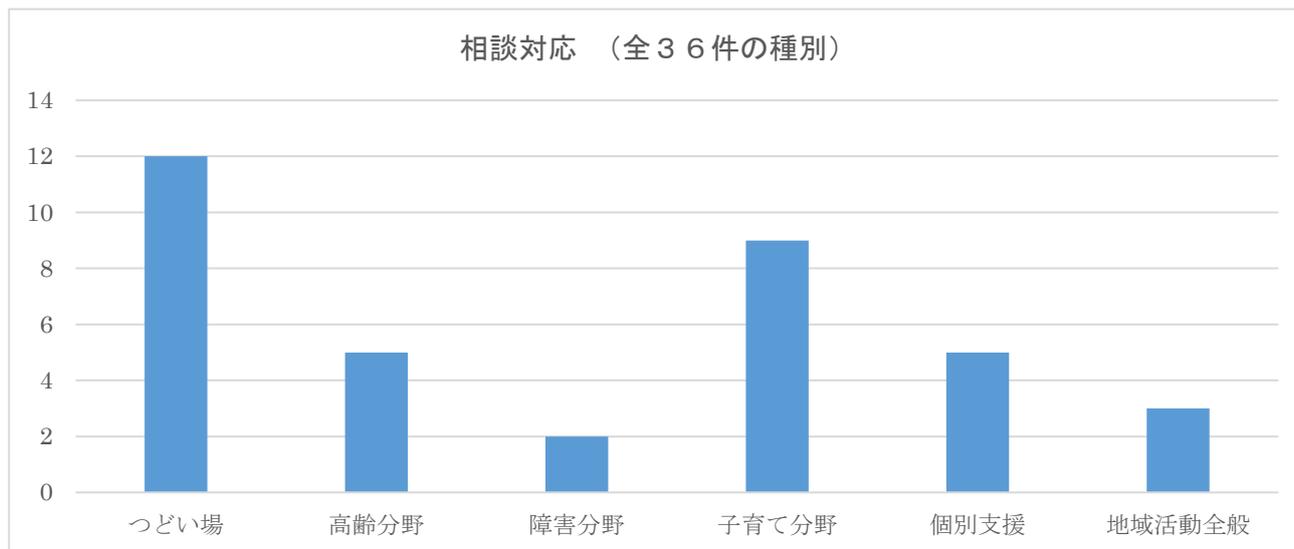


全活動381件のうち、4割を超える166件が「会議（内部会議除く）」である。

#### 会議（内部会議除く）の主な内容

- ☆ 総合事業のモデル地域（鳴尾東、今津）における関係者会議
- ★ 大学（武庫川女子大学、関西学院大学）との地域連携等に向けた会議
- ☆ 地域包括主催の専門職等連携「サポートネット会議」（市内5圏域のうち2圏域に参加）
- ★ 支部・分区における会議（地区ネットワーク会議、有償活動検討会議等）
- ☆ 個別支援会議（ごみ屋敷ケース）
- ★ 西宮市専門職会議、阪神南NPO会議 等

### 3. 相談対応内容



相談対応全36件の3分の1は「つどい場」相談、続いて子育て分野の相談が多い。

#### つどい場に関すること

- ☆ マンションでつどい場（体操や趣味の集まり）をやってみたいがどうすればよいか（市民）
- ★ 実際につどい場を行っているが経費や活動者の課題があり、相談にのってほしい（活動者）
- ☆ 介護経験をいかして、地域の高齢者の居場所づくりを行っていききたい（市民）
- ★ 近隣に空き家があるが、何か活用方法がないか（市民）

#### 子育て分野に関すること

- ☆ 分区の子育て地域サロンのような場所を子育て中の母親でつくっていききたい（市民）
- ★ 育児支援の有償サービスを立ち上げたいと考えている（活動者）
- ☆ 障がいのある子どもたちへの支援を大学生が実施していききたいと考えている（大学）

#### 高齢分野に関すること

- ☆ 地域で高齢者向け体操を行っているが、体操終了後に交流を深める工夫はないか（活動者）
- ★ 高齢者の余暇や社会参加促進を目指して、公民館講座などを行いたい（市民）
- ☆ 高齢者対象の事業をするための助成金などはないか（活動者）

#### 個別支援に関すること

- ☆ 発達障害のある高齢女性、約10年間、ため続けてきたゴミを何とかしたい（友人）
- ★ 一人暮らしの高齢男性、身体が弱りごみが捨てられず不衛生な状況になっている（包括）
- ☆ 一人暮らし高齢男性、アルコール依存による影響、ゴミ問題や地域見守りが必要（包括）

#### ※ 相談経路 ※

市民・当事者	18件
活動者（民生委員・分区関係）	5件
NPO・グループ・団体	7件
大学・高校	2件
地域包括支援センター	2件
その他（企業・行政）	2件

相談の半数は市民・当事者から直接寄せられている。つどい場啓発チラシ等を見ての相談や、活動者や関係機関から紹介を受けて具体的な相談をするケースが多かったと思われる。

### Ⅲ. 生活支援コーディネーターの具体的活動

#### 1. 新たな支え合いづくり

##### ① 地域の「つどい場」づくりの推進

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

個人の家や空き家、地域拠点等を活用して、住民同士が身近に気軽に集まれる場所としての「つどい場」づくりを推進するために、つどい場に関する啓発・相談対応や「つどい場ネットワーク」の加盟促進、交流会や研究会を行った。

#### ◎「つどい場交流会」の開催

回	日程	参加者	内容
第1回	H27. 12. 17 (木) 10:00~12:00	24人 (市内実践者10名、一般11名、コープこうべ3名)	・「つどい場」映像鑑賞 ・「つどい場」活動者からの一言活動紹介 ・交流会
第2回	H28. 3. 23 (水) 10:00~12:00	17人 (市内実践者7人、一般9人、大学生1人)	・個人シートによる自己紹介 ・グループ懇談

#### ◎「つどい場普及推進研究会」の開催

- ・「つどい場」実施状況の把握と課題分析をとおして、特に空き家や空き店舗を活用した「つどい場」の普及推進方法を模索するために研究会を立ち上げて実施
- ・メンバーは市内つどい場実践者、関係者、行政、社協で12名とし、テーマに応じてメンバーを拡大
- ・「つどい場」普及推進研究会報告書の作成

回	日程	内容
第1回	H27. 8. 31 (月)	○メンバー紹介 (自己紹介) ○「つどい場推進事業」について (説明) ○情報交換 『各つどい場の実施状況について』 (活動状況、課題、今後について等)
第2回	H27. 10. 28 (水)	○つどい場特集の映像鑑賞 ○「つどい場」の整理 (案) の提示 ○論議『「つどい場」を普及させるための方策について』
第3回	H28. 1. 28 (木)	○第1回「つどい場」交流会報告 ○「つどい場」運営経費等の状況について
第4回	H28. 3. 30 (水)	○第2回「つどい場」交流会報告 ○「つどい場」普及推進研究会報告書 (案) について ○今後の研究会について

◎「西宮市つどい場ネットワーク」

- ・市内つどい場の情報交換、交流、情報発信を行い、西宮におけるつどい場の普及推進を目指すためにネットワーク化を行っている

[ネットワーク加盟つどい場 実施状況 (※H28年3月現在 11ヶ所登録)]

	名称	開催場所	開催頻度	利用料	利用数	V・スタッフ数	開始年月
住み開き型	つどい場花あかり	小松東町	月2回 第1・3水 13～15時	100円 (若干変更有)	25人	9人	2011年1月
	ご近所高齢者の集い場「いっぷく」	生瀬町	月2回 第1・3火 13～15時	100円	12～13人	利用人数に含む	2012年5月
	つどい場“ふかたに”	深谷町	月1回 第3水 13時半～15時半	200円	15人	3人	2012年7月
	撫子の部屋	甲子園口北町	月3回 第2・3・4火 11～16時 第3火男性の会	500円 午後のみは300円	20人	5人	2012年9月
	おむすびころりん かっちゃん家	東山台	月1回 第4水11時～	500円	15人	利用人数に含む	2013年10月
	一休	山口町	不定期 (隔月1回程度)	500円	10人	利用人数に含む	2015年7月
事業型	つどい場 さくらちゃん	今在家町	ほぼ毎日	500円 昼食別途 500円	不定	不定	2004年3月
	まちcaféなごみ	東鳴尾町	月～土 9～17時	100円 (飲物代)	約60人	5～6人	2013年4月
地域拠点活用型	甲子園のつどい場 2番町ハウス	甲子園 2番町	第3土11～16時 (不定期開催有り)	500円 昼食実費	20人	8人	2014年5月
	つどい場 かすたねっと	高須町	第2・4水 13時半～15時半	100円	20人	5人	2012年1月
	シニア元気会	上ヶ原 四番町	第4火曜日	100円	15人	利用人数に含む	2012年

◎その他

- 「地域のつどい場開設助成」「つどい場」開設サポート制度の運用・交付
- 「つどい場啓発チラシ」発行(2000枚)と配布、つどい場に関する広報(講演)等

## ② 大型お片づけサポートプロジェクト

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

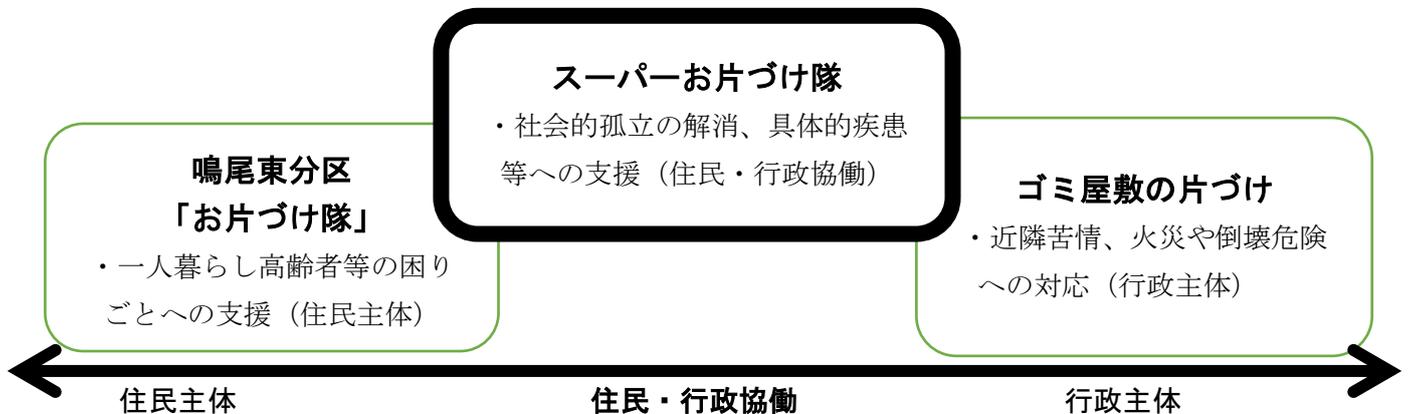
認知症や発達障害等の個人の状況に加えて、制度の狭間や社会的孤立、生活困窮等が要因となってゴミ屋敷化している世帯等への支援プロジェクト。ゴミ屋敷支援ボランティアの登録の仕組み「スーパーお片づけ隊」を既存の地域活動「お片づけ隊」を参考にしながら作り出し、具体的な支援活動を開始することで、本人・家族を中心にしながら、専門職や地域住民、行政等を交えての支援の輪づくり（ネットワーク）の構築を目指した。（H27年度 4件相談あり 2件の支援実施）

### ◎プロジェクトで目指すこと

- ① 本人の生活環境の改善  
→ “本人が望む暮らし” 一般的にみて “より好ましい暮らし” に近づける
- ② 本人と地域とのつながりの構築（再構築）  
→ 住民に専門職がかかわる安心感を生み出し、本人が地域とつながるきっかけをつくる
- ③ 地域資源（支援の仕組みやマンパワー等）の開発  
→ 制度の狭間にありがちな本人への支援体制づくりを行う（専門職、地域住民等のネットワーク）
- ④ 行政機関、専門機関、地域住民等の連携促進  
→ 個別支援事例をとおして、「ごみ屋敷」に限定しない連携体制づくり（顔の見える関係）

### ◎「スーパーお片づけ隊」の仕組み

- ・ごみ屋敷支援の趣旨に賛同された方のボランティア登録制度
- ・大学生、シニア世代等を中心に10名の登録



「スーパーお片づけ隊」登録要領書

西宮市社会福祉協議会

「ごみ屋敷」については社会的な問題になっていますが、居住者が必要な支援を受けていないか、社会的に孤立していないか、制度の狭間にあるなどの要領が考えられます。まずはゴミを片づけることで、居住者の生活や周辺環境の改善を行い、社会や地域とのつながりをつくっていくことが必要です。

「片づけ」をとらえて居住者自身が「地域とのつながり」を築くことに、ぜひご協力ください。

※片づけは居住者の合意のもと行います。片づけ後は、専門職や地域住民の連携やサポートにより「ごみ屋敷」化を繰り返さないような支援体制をつくっていきます。

【登録要件（基本）】

- ① 18歳以上の方
- ② 体力に自信がある方
- ③ 依頼者に寄り添う姿勢がもてる方
- ④ フライバシーを守れる方

※①②の要件に当てはまらない方でも機会によってはお願いできる活動がありますので、登録を希望される方はお問い合わせください。

【登録～活動の流れ】

「スーパーお片づけ隊」登録（@就労登録印刷） → 活動の依頼連絡・日程・内容 → 日程や内容が合えば活動へ

※登録者には活動の事前オリエンテーションや研修等を予定しています。  
※「スーパーお片づけ隊」登録の力は、他のボランティア情報等もご案内させていただきます。（災害支援関連のボランティア募集など）

西宮市鳴尾東地区（鳴尾東分区分）では、平成23年に地域の助け合い活動の一つとして、地域住民と武庫川女子大学の学生が協働して「お片づけ隊」を結成し、年2回、一人暮らし高齢者宅の電気交換、家具の移動、庭の草取りなどの支援活動を行っています。その活動展開を踏まえながら、全市の地域課題である「ごみ屋敷」問題に取り組んでいく仕組みが「スーパーお片づけ隊」になります。

活動や登録に関する詳細や不明な点は、下記までご連絡ください。

社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課  
〒663-8233  
西宮市御津川町2-28 西宮市福祉会館1階  
TEL (0798) 23-1030 FAX (0798) 23-1030  
E-Mail kyoseimachi@shakyo.jp

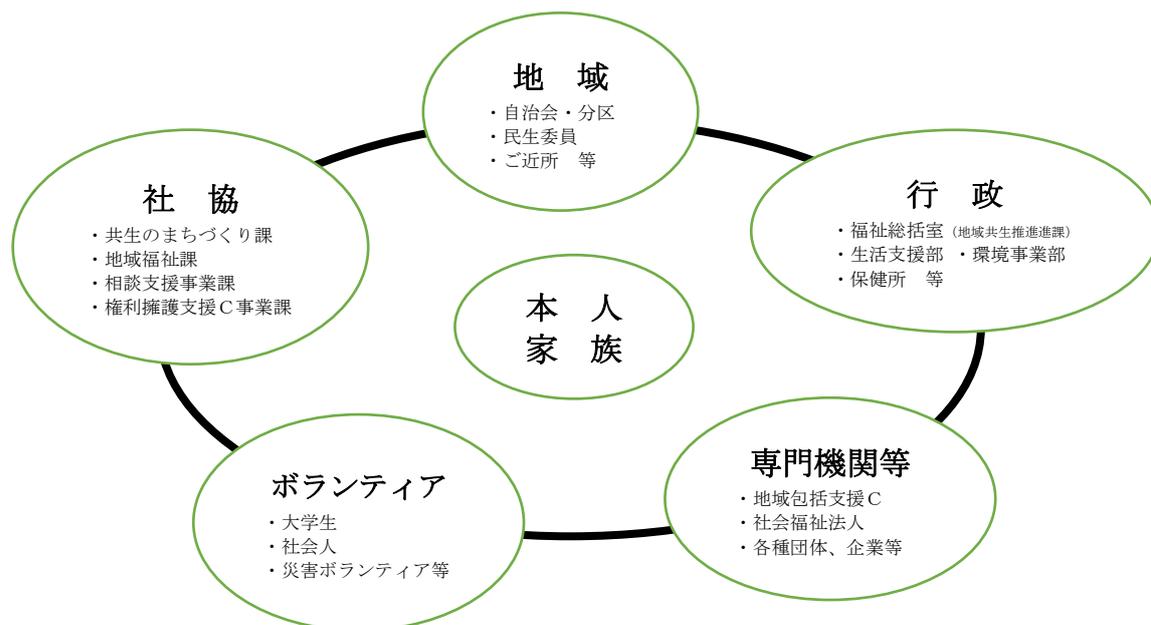
「スーパーお片づけ隊」登録用紙

記入日：平成 年 月 日

お名前	1男 2女	生年 月日	年 月 日	年 齢	才
住所	〒		職業	なしあり（ ）	
			学校・学年	学年（ ）年	
TEL		連絡先	連絡先	連絡先	連絡先
FAX		携帯E-mail	携帯E-mail	携帯E-mail	携帯E-mail
パソコンE-mail		ボランティア保険	未加入	加入済み	分らない
主な移動手段		自転車	自動車	バイク	
活動可能日	□平日（活動できない曜日があれば： ） □土曜日 □日曜日		□その他（ ）		
自由記入欄					
事務局記入欄					
V印刷		区分			

参考：「スーパーお片づけ隊」募集チラシと登録用紙

◎「ごみ屋敷」支援に関するネットワークの構築



※H27年8月6日市地域福祉推進検討会議で「ゴミ屋敷」支援をテーマに議論を実施

◎相談および活動事例

	対象者の状況	相談経路	支援活動内容	その他、特記事項
①	60代女性 一人暮らし 軽度発達障害	友人より市社協VC	①H27.12.8 13名で支援活動実施 (ごみ処理センターへ運搬) ②H28.3.16 8名で支援活動実施 (市パッカー車協力あり)	障害サービス、福祉サービス利用援助事業等につなぐことができたため、今後も専門職との継続支援を行っていく
②	70代男性 一人暮らし	地域包括支援Cより 生活支援C。	H28.3.4 5名で支援活動実施	本人の健康状態を考慮して、支援者会議への継続参加をとおし、支援活動の継続と地域での見守り活動を続けていく
③	70代男性 一人暮らし アルコール依存傾向	地域包括支援Cより 生活支援C。	①H28.2.15 第1回支援者会議 ②H28.2.25 親族を交えた会議	地域(自治会、民生委員等)と親族との継続した見守り支援開始
④	50代男性 90代、80代両親 と三人暮らし	本人より市社協VC (本人は長年、引きこもり状況にある)	H28.3.8 第1回支援者会議	支援活動については次年度に継続予定

## 2. 連携・協働に向けた取り組み

### ①西宮市地域づくり支援事業（介護保険モデル事業）への参画・支援

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築

まち cafe なごみ	鳴尾東地域	理事会・総会	2回
		実行委員会	12回
ふくふくサロン	今津地域	プロジェクト会議	11回
		実行委員会	2回
		その他の会議	2回

### ②協力事業者による高齢者見守り事業（西宮市との協働事業）

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

新聞配達や宅配等の事業者および店舗や病院・薬局等の協力（事業登録）により、地域で暮らす高齢者等の異変を発見した場合に地域包括支援センターへの通報連絡をすることで早期に支援につなげていくためのネットワーク構築を行った。

登録事業者：38 事業所  
 通報件数：4 件  
 見守り連絡会：平成 28 年 3 月 7 日 参加者 15 人

### ③社会福祉法人（高齢福祉分野）の地域貢献活動について

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

市内の社会福祉法人のうち、高齢福祉分野での施設運営を行っている法人を対象に、地域交流や社会貢献等に関する情報交換を行うことを目的にした会議を市福祉部局と連携して開催した。

名称：「地域との交流・公益的な取組みに関する会議」

実施日：平成 28 年 2 月 5 日

参加者：13 施設（10 法人 24 人）

### ④大学・NPO との連携（会議・事業）

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築
- 3. ニーズと取り組みのマッチング

武庫川女子大学	鳴尾地区高齢者健康支援ネットワーク	全体会議	5回
		分科会議（体操・音楽）	7回
		一人暮らしスタートアップ事業	1回
関西学院大学（およびNPO）	東日本大震災県外避難者支援活動および社会学フィールドワーク等での連携	会議	10回
		事業実施	8回
		講義等	1回

### 3. 共生のまちづくり実践

#### 地域共生館「ふれぼの」における共生のまちづくり実践に向けた地域連携

安井地域の住民やNPO法人、地域包括支援センターおよび関西学院大学生と共に推進協議会を結成し、ふれぼのに関する話し合いを行うことで、コミュニケーションを深めるとともに、連携体制を作った。

- ・ 4/16 推進協議会：建築の流れ説明、建設前イベントの打ち合わせ
- ・ 4/29 主催行事：建設前イベント「春の宴」
- ・ 5/28 推進協議会：地域共生館「ふれぼの」の事業計画について
- ・ 10/1 推進協議会：社協プログラム「ふれぼの」独自プログラム（介護者つどい、寺子屋）等
- ・ 1/27 推進協議会：各部会の進行状況等
- ・ 3/24 主催行事：竣工式
- ・ 3/26 推進協議会：完成への歩み報告、「ふれぼの」体制について



地域共生館「ふれぼの」(H28.4月開館) →

### 4. その他

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築

#### ①普及啓発活動（人材育成）

日程	研修名	主な内容
H27.10月	各地区民児協	生活支援Co、つどい場について
H27.12.7	芦原支部福祉講座	つどい場について
H27.12.10	鳴尾地区合同民児協研修	生活支援Co、つどい場について
H28.2.4	市社協地域活動者研修会	生活支援Coについて
H28.3.5	権利擁護支援フォーラム	ゴミ屋敷支援について
H28.3.18	ノーマライゼーションフォーラム	生活支援Coについて

#### ②その他

◎西宮市地域自立支援協議会への参画

- ・ 障害のある中・高校生の居場所づくりに向けたアンケート調査と分析

◎各種視察および研修への参加

◎地区担当者との連携会議、事例検討会 等

#### IV. 一年間の活動の振り返りと課題について

##### ～一年間の活動を振り返って～

- ・高齢や障害といった分野で分けることができない困難な課題を抱えた世帯が増えている中で、ごみ屋敷支援等への新たな支援の仕組みを作り出しながら、地域組織や行政、専門機関、社協内部の専門機関等との連携やネットワークづくりに重点をおいて活動をおこなった。
- ・地域の支え合い体制づくりを目指したモデル事業等への会議・活動等へは、社協の地区担当者と共に関わるが多かったが、それぞれの視点や役割を分けることを意識してより複層的に地域に関わるように心がけた。
- ・新たな支え合いづくりに取り組もうとしている地域には関わることはできたが、地域活動自体が停滞気味である地域に積極的に関わるのが生活支援C oの人員体制上、難しかった。

##### ～今後について～

- ・生活支援コーディネーターの活動について、圏域やエリアを意識しながら整理を進めるとともに、活動の分析や評価、地区担当者との連携の在り方について検討を行っていく。
- ・多様な団体とのつながりをいかした活動を推進しながら、全市的なネットワークづくりの構築に積極的に取り組む。
- ・地域活動者の高齢化、固定化という課題をふまえながら、地域の支え合いづくりに向けた人材育成に力を入れていく必要がある。